

研究拠点形成事業 平成27年度 実施計画書

A. 先端拠点形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	東京大学東洋文化研究所
アメリカ拠点機関：	プリンストン大学
フランス拠点機関：	社会科学高等研究院
ドイツ拠点機関：	ベルリン・フンボルト大学

2. 研究交流課題名

(和文)： 新しい世界史/グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築
(交流分野：歴史学)

(英文)： Global History Collaborative
(交流分野：History)

研究交流課題に係るホームページ：<http://coretocore.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

3. 採用期間

平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日
(2年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：東京大学東洋文化研究所

実施組織代表者（所属部局・職・氏名）：東洋文化研究所・所長・高見澤磨

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：東洋文化研究所・教授・羽田正

協力機関：

事務組織：東京大学東洋文化研究所事務部

相手国側実施組織（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

(1) 国名：アメリカ合衆国

拠点機関：(英文) Princeton University

(和文) プリンストン大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文) Department of History, Professor,

Jeremy ADELMAN

協力機関：(英文)

(和文)

経費負担区分 (A型) : パターン 1

(2) 国名 : フランス共和国

拠点機関 : (英文) Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales

(和文) 社会科学高等研究院

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Research Centre for History, Directeur d'Etudes, Alessandro STANZIANI

協力機関 : (英文)

(和文)

経費負担区分 (A型) : パターン 1

(3) 国名 : ドイツ連邦共和国

拠点機関 : (英文) Berlin Humboldt University

(和文) ベルリン・フンボルト大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Institute of Asian and African Studies, Professor, Andreas ECKERT

協力機関 : (英文) Berlin Freie University

(和文) ベルリン自由大学

経費負担区分 (A型) : パターン 1

5. 全期間を通じた研究交流目標

1. 新しい世界史理解と叙述の探求と確立 : 従来、世界各地における世界史の見方は、ヨーロッパ中心史観を下敷きとするという点では共通点を持ちながらも、国や地域によって多様だった。この多様な世界史の見方を拠点間で相互に参照・批判するとともに、現代世界において必要な地球への帰属意識 (地球市民意識) を共有できる新しい世界史の理解と叙述の方法を、拠点間の議論を通じて探求し確立する。

2. ミクロな歴史研究との交流 : 新しい世界史研究の成果を、一国史や地域史などミクロ・レベルの歴史の研究者に投げかけて当該研究領域における既存の知の再検討を促す。また、その再検討結果を新しい世界史の解釈に活用する。この相互往復運動の繰り返しによって、歴史研究全体の活性化を図る。

3. 上記2つの大目標を達成するために、4研究機関が緊密に連携し、新しい世界史研究と教育のためのネットワーク型拠点を構築する。このネットワークによって実現を図る主な事業は次のとおりである。

①研究者の交流 : 毎年一定数の研究者、PDを他の3拠点機関に派遣し、同時に3拠点機関から研究者を受け入れる。派遣・受け入れ研究者は、派遣先・受け入れ先で講演や授業を行い、国際共同研究に参画する。

②①と連動させる形で、毎年いずれかの拠点機関でテーマを定めた研究集会とセミナーを開催す

る。

③毎夏、いずれかの拠点機関で公開サマースクールを開講し、4拠点機関の大学院学生を中心に広く世界の若手研究者に世界史学習と研究交流の場を提供する。また、博士論文を準備中の大学院生に対して、4拠点機関の研究者からなる指導チームを編成し、より完成度の高い論文が執筆できるように共同で指導する。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

世界史/グローバル・ヒストリーを共同で研究するために、4拠点間でのネットワーク構築を当面の目標として一年目の諸種の活動を行ってきた。海外の3拠点でそれぞれ研究会やセミナーを開催し、東京でも来日した研究者のセミナーを3回開催した。また、ベルリンに大学院学生を派遣し、プリンストンには研究者を2名送った。海外の3拠点と互いの特徴や方向性についての相互理解が進み、今年度以後の共同研究を円滑に進めるための体制が整ったと考えている。

7. 平成27年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

初年度の事業を通じて形成されつつある4拠点間の相互理解と協力関係をさらに深化させ、安定的な研究協力体制の構築を目指す。

<学術的観点>

各国、各言語によって微妙に異なる新しい世界史/グローバル・ヒストリーの意味や研究方法を確認し、学術面での相互理解を進める。

<若手研究者育成>

初めてのサマースクールを日本で開催し、各拠点から参加する複数の研究者が共同で大学院学生を指導する。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

日本国内において、新しい世界史/グローバル・ヒストリー的な歴史研究への理解を深めるための取組を企画する。

8. 平成27年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成26年度	研究終了年度	平成30年度
研究課題名	(和文) 世界史/グローバル・ヒストリーの方法				
	(英文) Methodology of World/Global History				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 羽田 正 東京大学東洋文化研究所・教授				
	(英文) HANEDA Masashi, Professor, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo				

相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Jeremy ADELMAN, Professor, Princeton University Alessandro STANZIANI, Directeur d' Etudes, EHESS Andreas ECKERT, Professor, Berlin Humboldt University	
参加者数	日本側参加者数	45 名
	(アメリカ) 側参加者数	10 名
	(フランス) 側参加者数	10 名
	(ドイツ) 側参加者数	13 名
27年度の 研究交流活動 計画	1. 東京における講演会開催 来日する他の3拠点の研究者による講演会を順次開催する。 2. 海外拠点での共同研究会の開催 協力研究者を海外3拠点に派遣し、共同研究会を通じての研究交流を進める。 3. サマースクールの開催 海外3拠点と協力し、日本で大学院生を対象とするサマースクールを開催する。	
27年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	1. 世界史/グローバル・ヒストリー研究における4拠点間での研究交流の 深化と研究協力体制の構築 2. 世界史/グローバル・ヒストリー研究において「日本」の過去を組み込 むことの重要性を外国の研究者に認識させること 3. サマースクールにおいて、大学院学生を4拠点の研究者が共同で指導し、 次世代の世界レベル研究者を養成すること 4. サマースクールを契機に他の3拠点の指導的な研究者が日本を訪れるこ とになり、彼らの存在が日本の歴史学界に刺激を与えること。また、彼らに 日本の学界の質の高さを知ってもらえること	

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「新しい世界史/グローバルヒストリー共同研究拠点の構築」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Global History Collaborative “
開催期間	平成 27年 11月 5日 ~ 平成 27年 11月 6日 (2日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) フランス、パリ、社会科学高等研究院 (英文) France, Paris, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 羽田正、東京大学東洋文化研究所・教授 (英文) HANEDA Masashi, Professor, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Alessandro STANZIANI, Professor, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales

参加者数

派遣先 派遣		セミナー開催国 (フランス)
日本 〈人／人日〉	A.	5/ 25
	B.	
アメリカ 〈人／人日〉	A.	5/ 25
	B.	
フランス 〈人／人日〉	A.	9/ 18
	B.	10
ドイツ 〈人／人日〉	A.	5/ 25
	B.	
合計 〈人／人日〉	A.	24/ 93
	B.	10

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)
B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい

場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>4 拠点の主要な研究者が一同に会し、相互の世界史認識と問題関心を確認する。特に、サマースクールで主として大学院学生が議論する歴史研究における尺度や規模の問題を取り上げ、主要メンバーがさらに突っ込んだ議論を行うことで、世界の新しい世界史/グローバル・ヒストリー研究分野において指導的立場を獲得することを目指す。</p>		
<p>期待される成果</p>	<p>1. 世界史/グローバル・ヒストリー研究における尺度や規模について、4つの拠点に所属する研究者の認識の相違と共通点が明らかになり、研究者間での相互理解が進む。 2. 4つの拠点が目指すべき研究の前提と方向性について合意が生まれる。これが以後の共同研究を展開する上での基盤となる。 3. 以後の共同研究を進める際に重要となるいくつかの具体的な研究テーマと研究組織について、メンバー間での合意を得る。</p>		
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>プログラムの内容は4拠点のコーディネーターが話し合って決めるが、セミナーの実施については、パリ側がホストとして、会場を提供し、運営のすべてに責任を持つ。 日本側は、幹事会が派遣研究者を決定し、セミナーのための特別な運営組織は作らない。</p>		
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 外国旅費 謝金（翻訳および校正料、HP維持管理、セミナー補助） 消費税 合計</p>	<p>金額 1500,000 円 500,000 円 160,000 円 2160000 円</p>
	<p>(アメリカ) 側</p>	<p>内容 外国旅費、謝金</p>	
	<p>(フランス) 側</p>	<p>内容 外国旅費、国内旅費、謝金、会議費</p>	
	<p>(ドイツ) 側</p>	<p>内容 外国旅費、謝金</p>	

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
東京大学総合文化研究科・博士課程学生・寺田悠紀	ドイツ・ベルリン・ベルリン自由大学	2015年4月	若手研究者の海外派遣・イランを中心とする美術博物館の成立についての研究および調査
北海道大学文学研究科・准教授・守川知子	フランス・パリ・社会科学高等研究院	2015年12月	研究発表と共同研究打ち合わせ
東京大学人文社会系研究科アジア文化研究専攻アジア史・博士課程学生 マンドハイ・ルハグワスレン	フランス・パリ・社会科学高等研究院	2015年10月から3月まで	若手研究者の海外派遣・モンゴル帝国を中心とした国家間の相互依存性の実態をグローバル・ヒストリーの観点からとらえなおす研究および調査
東京大学工学系研究科・建築学科・博士課程学生・江本弘	アメリカ・プリンストン・プリンストン大学	2015年10月から3月まで	若手研究者の海外派遣・建築論壇におけるジョン・ラスキンの世界受容についての研究および調査
東京大学学際情報学府・博士後期課程学生・金ジユン	アメリカ・プリンストン・プリンストン大学	2016年1月から3月まで	若手研究者の海外派遣・1980年代の旅行記をもとにした韓国のグローバル化についての研究および調査

8-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

「該当無し」

9. 平成27年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣	日本 〈人／人日〉	アメリカ 〈人／人日〉	フランス 〈人／人日〉	ドイツ 〈人／人日〉	合計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉		2/ 270 (0/ 0)	9/ 246 (0/ 0)	4/ 40 (0/ 0)	15/ 556 (0/ 0)
アメリカ 〈人／人日〉	0/ 0 (10/ 313)		0/ 0 (5/ 25)	0/ 0 (0/ 0)	0 (15/ 338)
フランス 〈人／人日〉	0/ 0 (10/ 106)	0/ 0 (0/ 0)		0/ 0 (0/ 0)	0/ 0 (10/ 106)
ドイツ 〈人／人日〉	0/ 0 (9/ 282)	0/ 0 (0/ 0)	0/ 0 (5/ 25)		0/ 0 (14/ 307)
合計 〈人／人日〉	0/ 0 (29/ 701)	2/ 270 (0/ 0)	9/ 246 (10/ 50)	4/ 40 (0/ 0)	15/ 556 (39/ 751)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

9-2 国内での交流計画

18 / 41 〈人／人日〉

10. 平成27年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	2,800,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	7,600,000	
	謝金	1,500,000	
	備品・消耗品 購入費	772,000	
	その他の経費	1,100,000	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	728,000	
	計	14,500,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		1,450,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		15,950,000	